

平成21年 6月29日現在

研究種目：「基盤研究（B）」

研究期間：2005～2008

課題番号：17320016

研究課題名（和文） チベット・ポタラ宮所蔵梵本『維摩経』に基づく総合的研究

研究課題名（英文） A comprehensive study based on the Sanskrit text of the Vimalakirti-nirdeśa preserved at the Potala Palace in Tibet

研究代表者

多田 孝文（TADA KOUBUN）

大正大学・人間学部・教授

研究者番号：50054656

研究成果の概要：チベット・ポタラ宮の完本『維摩経』サンスクリット語写本からチベット語訳・漢訳三本を対照しながら、仏教学者の注目の的であるサンスクリット語「校訂テキスト」を出版した。また、日本印度学仏教学会第57回学術大会において「『維摩経』の思想と文化」と題してパネルディスカッションを開催し、インド・中国・日本における維摩経の思想と文化に関して、活発な意見交換を行った。

交付額

（金額単位：円）

|        | 直接経費       | 間接経費      | 合計         |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2005年度 | 3,100,000  | 0         | 3,100,000  |
| 2006年度 | 2,600,000  | 0         | 2,600,000  |
| 2007年度 | 2,500,000  | 750,000   | 3,250,000  |
| 2008年度 | 2,700,000  | 810,000   | 3,510,000  |
| 総計     | 10,900,000 | 1,560,000 | 12,460,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：維摩経・梵本写本・支謙・鳩摩羅什・玄奘・大乘仏教・ポタラ宮

## 1. 研究開始当初の背景

(1)1999年7月30日。大正大学は世界で初めて、チベット自治区ラサ市のポタラ宮において完本の『維摩経』サンスクリット語写本を発見した。世界の仏教学者にとって憧憬の的であったサンスクリット語写本の発見は、学会に大きな衝撃を与え、2004年3月18日には大正大学総合佛教研究所によって、梵蔵漢対照『維摩経』『智光明荘嚴経』として発刊されている。

(2)サンスクリット語写本からの「ローマ字転写テキスト」出版によって、従来のチベット語から再構成されたサンスクリットテキス

トとは、相当の隔たりがあることが判明する。発刊は世界初という観点から、原点に忠実なテキストを掲載したため、梵本写本の誤植等もあえて校訂せず掲載されたのである。

以上のような背景のもと研究を開始した。

## 2. 研究の目的

(1)インド部門では『維摩経』のチベット語訳・漢訳三本を対照しながら、仏教学者の注目の的であるサンスクリット語「校訂テキスト」を出版。

(2)中国部門は上記のサンスクリット語「校訂テキスト」に基づきながら、漢訳三本を厳密に比較対照し、漢訳三本のうち特に重要とされる鳩摩羅什訳の価値を再検討する。そして、『注維摩経』などの中国における諸注釈書をも参照し、中国仏教に与えた『維摩経』の文化的・思想的影響を明らかにする。

(3)日本部門は聖徳太子や凝然などの諸注釈書、および末疏における『維摩経』の研究を通して、『維摩経』が、どのように日本仏教に影響を与えてきたかを明らかにする。また禅思想における『維摩経』の位置づけも同時に行う。

(4)文化現象部門は『維摩経』のもつ高い文学性に由来する文化事象、例えば、東アジアに現存する維摩居士像や、日本の説話文学、仏教儀礼としての「維摩会」など、様々な文化事象があるが、それらの文化事象に対して『維摩経』がどのように影響を与えたかを明らかにする。また、近代仏教運動における同経の影響をも明らかにする。

上記内容を研究の目的とした。

### 3. 研究の方法

(1)「校訂テキスト」に関しては高橋教授が研究統括者として、サンスクリット写本の厳密な校訂作業にあたった。これは、先に大正大学より出版した梵蔵漢対照『維摩経』『智光明莊嚴経』におけるサンスクリット語部分のテキスト校訂であり、原本との比較を行い、研究協力チーム12名〔木村高尉、木村秀明、大塚伸夫、松濤泰雄、矢板秀臣、故前田崇、伊藤堯貫、米澤嘉康、鈴木晃信、瀧英寛、西野翠〕の協力を得て校訂の統一が図られた。作業にあたっては、『維摩経』の分担箇所を取り決め、校訂作業を進めた。

その原稿を高橋教授が中心となり下田・渡辺・野口・佐久間研究分担者参加のもと、サンスクリット文法上の諸問題を討議し校閲を行った。

(2)中国部門は漢訳『維摩経』によって中国にもたらされた大乘仏教思想・文化がいかに展開したかを総合的に明らかにする。維摩経の漢訳本は、三国時代・呉・支謙訳本、南北朝期・後秦・鳩摩羅什訳本、唐・玄奘訳本、の三本が現存し、それぞれが同時代の中国思想・仏教思想・文化の形成に大きな関わりをもち、多くの成果を後世に遺した。漢訳は異

文化が触れあって展開するもっとも本源的な局面である。よって中国部門研究分担者はつぎのを行う。

①サンスクリット語「校訂テキスト」に基づいた漢訳三本の比較対照と訳語の研究。

②維摩経の研究は中国においてももっとも盛んである。その理由は鳩摩羅什訳の存在であり、後世の中国・日本仏教思潮の形成にとって特に重要なはたらきを為した。したがって特に鳩摩羅什訳の訳語と思想の再検討を行う。

③中国における最も早い維摩経研究の成果は鳩摩羅什の門人たちによって為され、その思想的価値の重大さ故後人によって合糅された『注維摩詰経』が現存する。すでに大正大学の研究グループによる長年の研究成果をまとめた『対訳 注維摩詰経』（平成12年山喜房佛書林刊）があり、これとサンスクリット語「校訂テキスト」によって詳細な研究を行った。

(3)日本部門では『維摩経義疏』を中心とした、聖徳太子と『維摩経』思想について明らかにすることを第一のテーマとした。日本の『維摩経』研究の多くは中国において著わされた注釈書を注釈するという立場で進められ、多くの成果が存在している。そうした『維摩経』の研究を通して、本経がどのように日本仏教に影響を与えてきたかを明らかにした。

また、準備段階において提示された「本朝における『維摩経』注釈書研究」を基軸とした種々の問題点を整理し、中国と日本の『維摩経』の比較研究を行った。

(4)文化現象部門は維摩居士の個性的な人物像とその思想、そしてそれを表現した高度な文学性に由来して創造された東アジアにおける諸文化事象を研究対象とした。

全体のテーマは「中国・六朝時代の詩人・謝靈雲などの文学にみる『維摩経』」「日本の説話文学における『維摩経』」「東アジアに現存する維摩居士像、壁畫」「仏教儀礼として盛んに行われた「維摩会」」である。さまざまな文化事象を通して、東アジアの諸文化における『維摩経』の影響を明らかにし、またその状況を踏まえつつ、『維摩経』の思想を「現代」との接点において考究する。すなわち、現代の世界的状況、思潮、倫理、世相の問題をテーマとして掲げ、これらの問題に『維摩経』がどのように関わっていくべきなのかを思考した。

#### 4. 研究成果

(1)平成 18 年 3 月には第 2 回共同研究者会議で梵本研究を中心とした発表が行われた。梵文校訂テキストの出版にあたり、2 名の研究協力者によって校訂テキストの作成過程にあらわれた問題について研究発表が行われた。

松濤泰雄氏は『維摩経』梵文写本の筆写等に関わる問題点と校訂に際しての問題点、梵文原文と藏漢諸訳との関係について発表、長島潤道氏は『梵本維摩経—ポタラ宮所蔵写本に基づく校訂—』の梵文特有の文法上の問題点について研究発表を行った。

(2)平成 18 年 3 月 18 日には『梵本維摩経—ポタラ宮所蔵写本に基づく校訂—』が大正大学出版会より出版された。インド部門の研究成果であり、この成果が各研究会の基礎となった。原本との比較を行い、サンスクリット文法上の諸問題を討議し、その結果を出版したものである。

(3)平成 18 年度第 1 回共同研究者会議では、共同研究者による平成 18 年 9 月 13 日に開催された、第 57 回日本印度学仏教学会公開パネルディスカッションについて打ち合わせが行われた。

実際の公開パネルディスカッションでは、研究分担者である多田孝文・高橋尚夫・平井宥慶・吉津宜英・佐久間秀範・渡辺章吾の 5 先生、木村清孝日本印度学仏教学会理事長・斎藤明東京大学教授の 2 先生がパネリストとして参加された。

研究分担者多田孝正の司会より、2 時間半に亘り行われ、250 人以上の方が参加され、専門分野だけに留まらず、多分野からの質問や意見交換が行われた。

この講演録は現在編集作業中であり、近日公開予定ある。

(3)平成 20 年 2 月にインド部門の米澤嘉康・長島潤道の両氏が梵文校訂に関する研究発表を行った。目的は、当研究会に関連して出版された『梵本維摩経』(2006)出版後の研究動向の調査のためである。

米澤氏は大正大学『維摩経』テキストにおける文献学的特徴とそれに準拠して進められた諸研究の比較調査を行い、パワーポイントによって写本画像を鮮明に示しつつ、当写本が読みを尊重するテキストであることが再確認された。

長島氏は、2006 年の『梵本維摩経』出版後、岩松浅夫氏によって発表された『維摩経』梵本の偈頌について・「梵本維摩経偈頌攷正

(1)・「維摩経の偈頌について：諸異本の比較を中心に」の 3 本の論文に関する語義解釈および訳文の再検討を行い、1・7 章の偈頌の中 1-6、1-7、7-2 の三偈について詳細な考究を進め、テキストの進展が見られたわけである。

(4)研究分担者である坂本廣博氏は平成 18 年より『注維摩経』に見る羅什の法身観(一)～(三)『叡山学院研究紀要 第 28～30 号』で発表した。

また、支謙訳の『維摩経』を試訳した。広く読まれている鳩摩羅什訳『維摩詰所説経』との比較研究が期待される。その試訳が「支謙訳『維摩経』試訳(一)」として『叡山学院研究紀要 第 31 号』に所収されている。

(5)ベルギーの大仏教学者であるラモット博士による“*L'Enseignement de Vimalakīrti*”(Louvain, 1962)は「維摩経」のフランス語訳として非常に高い評価を受けたばかりでなく、「維摩経」の研究書としても多岐にわたる詳細な研究に基づく正確無比な内容で知られ、今なお「維摩経」研究書の頂点にある。とりわけ、その序論は「維摩経」の歴史、教理など一切を網羅すると言って過言ではない。このラモット博士のフランス語訳「維摩経」の「序論」(“INTRODUCTION”)を、Sara Boin による英語訳をベースに、研究協力者である西野翠氏が翻訳したものを基に研究を進めた。この訳に関しては郭忠生氏による中国語訳も出版されており、中国語訳本には郭氏の追跡研究の結果が加えられているばかりでなく、仏訳・英訳の要約が示され、箇所のみが挙げられている漢訳経文については、その全文を提示し、あるいは引用経典を大正藏経で検索しやすいように、経典番号、巻数と頁数を明記するといった工夫が随所に見られた。この中国訳本を参考に研究を進め、幅広い知見を得ることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

①坂本廣博、『注維摩経』に見る羅什の法身観(一)、叡山学院研究紀要、28 号、13～23、2006、有

②坂本廣博、『注維摩経』に見る羅什の法身観(二)、叡山学院研究紀要、29 号、15～30、

2007、有

③坂本廣博、『注維摩經』に見る羅什の法身觀(三)、叡山学院研究紀要、30号、33~44、

2008、有

④坂本廣博、「支謙訳『維摩經』試訳(一)」、叡山学院研究紀要、31号、15~60、2009、有

〔学会発表〕(計2件)

①塩入法道、『維摩經』における成就衆生について—衆生論の視点から—、日本印度学仏教学会、2007年9月13日、大正大学

②木村清隆、斎藤明、下田正弘、吉津宜英、佐久間秀範、渡辺章吾、平井宥慶、高橋尚夫、多田孝文、『維摩經』の思想と文化、日本印度学仏教学会パネルディスカッション、2007年9月13日

〔図書〕(計1件)

大正大学総合佛教研究所 梵語仏典研究会 高橋尚夫、前田崇、松濤泰雄、米澤嘉康、古宇田亮修、瀧英寛、長島潤道、吉澤秀知、西野翠、大正大学出版、2『梵本維摩經—ポタラ宮所蔵写本に基づく校訂—』

〔その他〕(計1件)

チベット・ポタラ宮所蔵梵本『維摩經』に基づく総合的研究、多田孝文編、『『維摩經』に基づく総合的研究研究報告書』(編集中)平成21年度中出版予定。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

多田 孝文 (TADA KOUBUN)  
大正大学・人間学部・教授  
研究者番号：50054656

### (2) 研究分担者

高橋 尚夫 (TAKAHASHI HISAO)  
大正大学・人間学部・教授  
研究者番号：90297078  
下田 正弘 (SHIMODA MASAHIRO)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授  
研究者番号：50272448  
渡辺 章悟 (WATANABE SHOGO)  
東洋大学・文学部・教授  
研究者番号：50277349  
野口 圭也 (NOGUCHI KEIYA)  
大正大学・人間学部・非常勤講師  
研究者番号：30268106  
佐久間 秀範 (SAKUMA HIDENORI)  
筑波大学・大学院人文社会科学系研究科・教授  
研究者番号：90225839

小山 典勇 (KOYAMA NORIO)

大正大学・人間学部・教授  
研究者番号：10317638

小澤 憲珠 (OZAWA KENJU)  
大正大学・人間学部・教授  
研究者番号：70297076

塩入 法道 (SHIOIRI HOUDOU)  
大正大学・人間学部・教授  
研究者番号：60317641

池田 宗譲 (IKEDA SHUUJOU)  
大正大学・人間学部・准教授  
研究者番号：20365852

栗山 秀純 (KURIYAMA SHUJUN)  
大正大学・人間学部・名誉教授  
研究者番号：50146958

勝崎 裕彦 (KATSUZAKI YUGEN)  
大正大学・人間学部・教授  
研究者番号：90317636

坂本 廣博 (SAKAMOTO KOUBAKU)  
大正大学・人間学部・非常勤講師  
研究者番号：20407638

榊 義孝 (SAKAKI YOSHITAKA)  
大正大学・人間学部・准教授  
研究者番号：20349187

多田 孝正 (TADA KOUSHOU)  
大正大学・人間学部・名誉教授  
研究者番号：20188246

大南 龍昇 (OMINAMI RYUSHO)  
大正大学・人間学部・教授  
研究者番号：50104899

平井 宥慶 (HIRAI YUKEI)  
大正大学・人間学部・教授  
研究者番号：90054668

小峰 彌彦 (KOMINE MICHIIHIKO)  
大正大学・人間学部・教授  
研究者番号：80297077

廣澤 隆之 (HIROSAWA TAKAYUKI)  
大正大学・人間学部・教授  
研究者番号：20317639

### (3) 連携研究者

吉津 宜英 (YOSIZU YOSHIHIDE)  
駒澤大学・仏教学部・教授  
研究者番号：10052549

北川 前肇 (KITAGAWA ZENCHO)  
立正大学・文学部・教授  
研究者番号：30062871

福原 隆善 (FUKUHARA RYUZEN)  
佛教大学・文学部・教授  
丸井 浩 (MARUI HIROSHI)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授  
研究者番号：30229603